

Corynebacterium striatum による感染性心内膜炎の1症例

◎川上 翔¹⁾、小林 亮太¹⁾、佐藤 亜矢子¹⁾、菊池 充¹⁾
JA とりで総合医療センター¹⁾

【はじめに】*Corynebacterium striatum* は、通性嫌気性のグラム陽性桿菌で皮膚や粘膜の常在菌であるため、起炎菌としての解釈が困難なことがある。今回、*C. striatum* による感染性心内膜炎を経験したので報告する。

【症例】70歳代女性。心疾患の既往歴なし。第1病日に前医で脳梗塞の診断となり、当院に転院搬送となった。38度台の発熱、胸部CTで軽度の肺炎像を認め、嚥下障害があったことから誤嚥性肺炎を疑い、ABPC / SBT が投与されたが発熱は続いた。第2病日に、入院時採取した血液培養からグラム陽性桿菌を認めたが、汚染菌と判断され血液培養が再提出された。第3病日には、再提出された血液培養でもグラム陽性桿菌を認めたため、起炎菌と判断された。同日に施行した経胸壁心臓超音波検査で僧帽弁前尖と後尖に疣贅を認め、感染性心内膜炎の診断となった。積極的な治療を望まなかったことから外科的治療はせずVCM+GMにより治療開始した。

【微生物学的検査】入院時に提出された血液培養2セット4本と再提出された血液培養3セット6本、全てのボトル

からグラム陽性桿菌を認めた。分離された菌は、質量分析で、*C. striatum* と同定された。薬剤感受性試験は多くの薬剤に耐性であった。

【考察】感染性心内膜炎の主な原因菌は、連鎖球菌やブドウ球菌であり、*C. striatum* が血液培養から検出されても汚染菌と判断され軽視されることがある。しかし、本症例のように起炎菌となり得ることを念頭に置き早期に同定感受性結果を報告することが必要であると考えられた。

連絡先 0297-74-5551 (内線 1278)